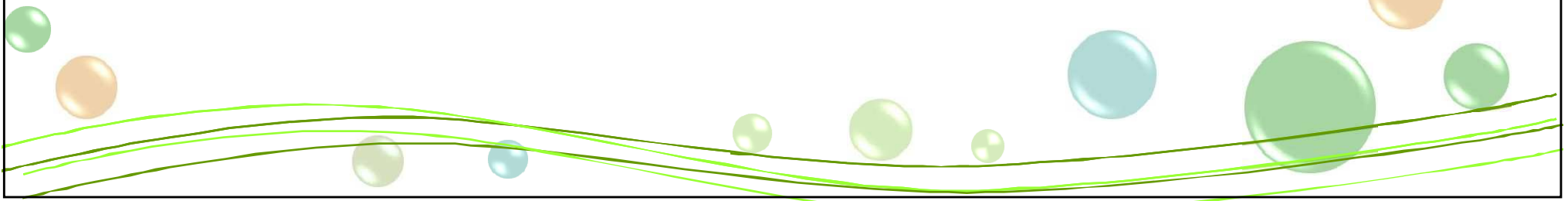


模擬訓練実務研修会

被災宅地危険度判定士養成講習会

公益社団法人 全国宅地擁壁技術協会



危険度判定票を作成してみよう

擁壁編



①



②



③



④



(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時		年	月	日	時	調査番号
		地震名又は降雨災害名						
被害発生場所	都道府県			市郡			区町村	
	地区・団地			丁・番			号	
所有者・管理者氏名	TEL:			記入者氏名	TEL:			
所有者・管理者の連絡先				居住者への説明	☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅			
＜被災状況図＞					応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録			
1. クラック	2. 水平移動	3-1. 不同沈下	3-2. 地盤の歪み	4. ハラミ	5-1. 傾斜	5-2. 倒壊	6. 柱梁の折損	7. 崩壊
8. 突出した壁・薄壁の支柱の傾斜	9. 基礎及び基礎地盤の被害	10. 排水施設の変状	建物・道路との位置関係(基礎点) 影響範囲外(B) 影響範囲(C) 影響範囲外(B) 					
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。								
[平面図] [断面図]								
被災写真の有無 ☐ 無 ☐ 有一写真番号 []								
特記事項								

[illegible]

(様式－1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
		地震名又は降雨災害名					
被害発生場所	都道府県						区町村
	地区 団地						番 号
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL.			
所有者・管理者の連絡先		TEL:		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅	
写真・図より				応急措置 ☒ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録			
<被災状況図> 1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊 8.張出し床版付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状							
				建物・道路との位置関係(基礎点)			

※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。
 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。

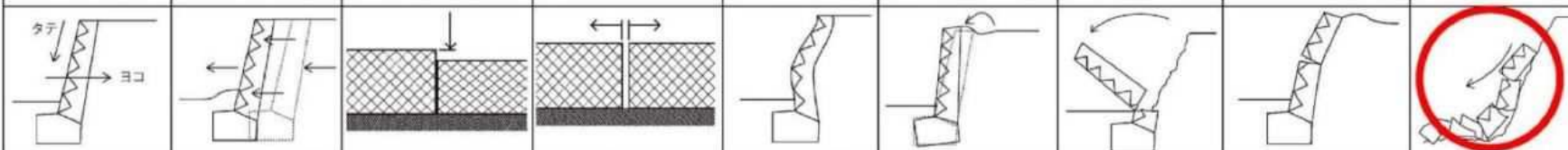
ブルーシートで措置されているため

写真・図より

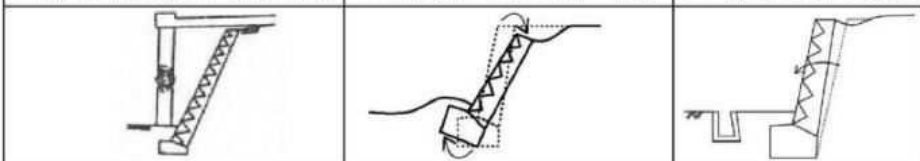
<被災状況図>

応急措置 ☒済 ☐未了
☐被災無 ☐簡易記録

1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊



8.張出し床版付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状

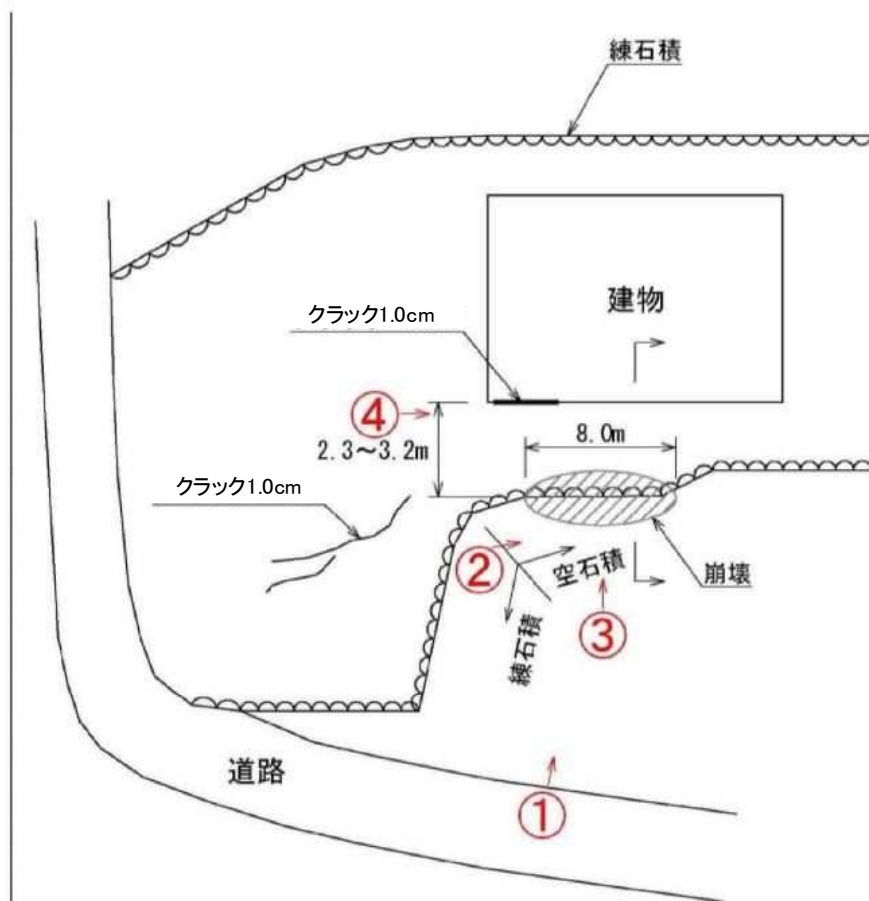


建物・道路との位置関係(基礎点)

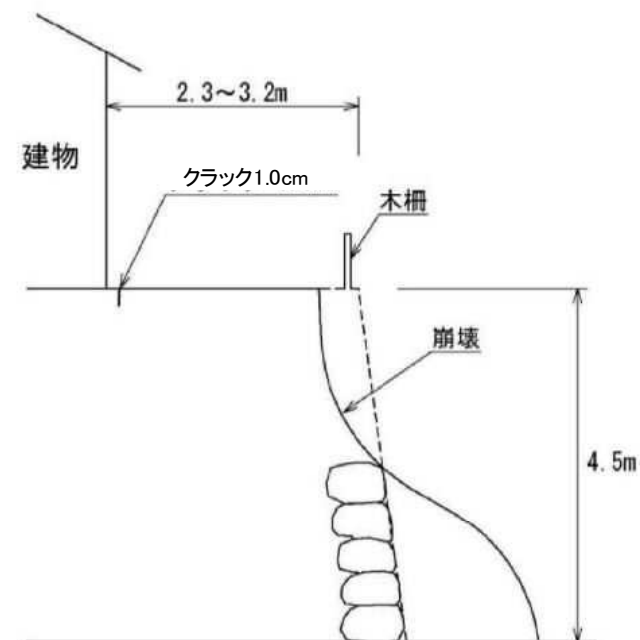


※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。

ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。



[平面図]



[断面図]

被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有 → 写真番号 [7-①~④]

特記事項

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	☐ コンクリート系擁壁 ☐ L(逆T)型 ☐ 重力式 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 増積み擁壁	空石積は構造的に 水抜孔の効果がある為、 天端状況で判断。	☐ 場所打ち ☐ プレキャスト ☐ 二段擁壁	上部高 m ; 下部高 m
		☐ 練石積擁壁 ☐ 間地石 ☐ コンクリートブロック ☐ その他	☐ 張出し床版付擁壁 ☐ その他		☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明	
		☒ 空石積擁壁 ☒ 玉石積 ☐ くずれ石積 ☒ 間地石 ☐ その他	擁壁の勾配 度 又は (1 :)			
		☐ 影響範囲に建物または道路がある ☐ 影響範囲に建物または道路がない(B)				
基礎点	①湧水	乾燥	0	0	基礎点計 ①+②+③ 1.0	
		湿潤	0.4	0.2		
		にじみ出し、流出	0.8	0.4		
	②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止	0	0		
		水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2		
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適當	0.8	0.4		
	③高さ	H ≤ 1m	0	0		
		1m < H ≤ 3m	0.2	0.1		
		3m < H ≤ 4m	0.4	0.2		
		4m < H ≤ 5m	0.6	0.3		
5m < H		0.8	0.4			

写真より

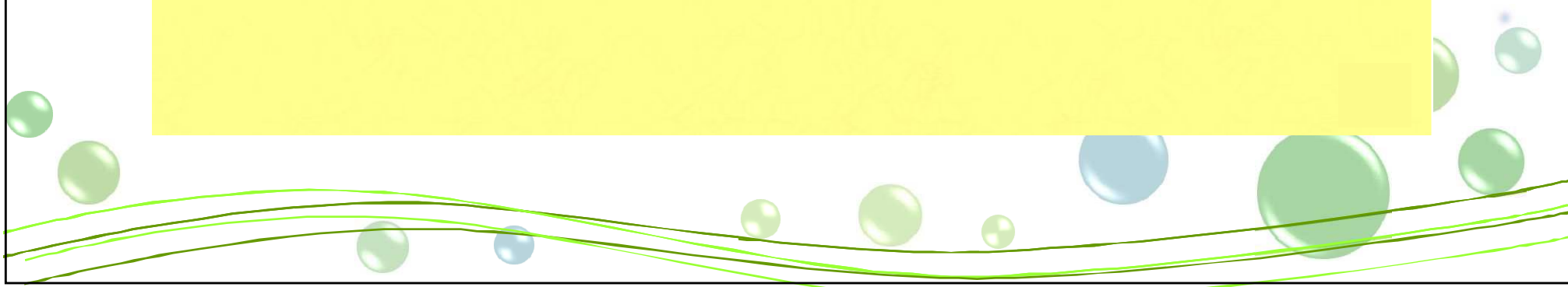
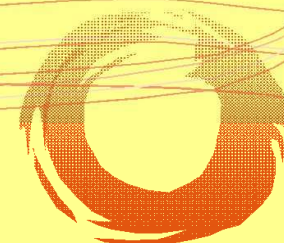
図より

区分	項目	小						中						大					
		コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5		2.5	3.5	4	5	7		4	5	6	7	8	
	2 水平移動	2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9
	3 不同沈下・目地の開き	3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10	
	4 ハラミ		4.5	5	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	10
	5 傾斜・倒壊	5	5.5	6	7	8		7	8	8	9	10		8	9	10	10	10	
	6 擁壁の折損	6	6.5	7	8	9		7	8	9	9	10		8	9	10	10	10	
	7 崩壊		9	9	10	10	8		10	10	10	10	9		10	10	10	10	10
	8 張り出し床板付擁壁の支柱の損傷					7						9						10	
	9 基礎及び基礎地盤の被害																		
	10 排水施設の変状			3						5						7			
	11 擁壁背面の水道管等破裂									10									
変状の程度	項目/程度	小						中						大					
	1 クラック(幅)	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)。						2mm～20mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm～5mm未満)。						20mm以上(コンクリート系擁壁の場合5mm以上)。					
	2 水平移動(伸縮目地前後のずれ)	5mm未満の間隙(変位)がある。						5mm～50mm未満の間隙(変位)がある。						50mm以上の間隙(変位)がある。					
	3 不同沈下・目地の開き(目地上下・左右の開き)	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。						5mm～50mm未満の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。						50mm以上の目地の上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある。					
	4 ハラミ(テンションクラック・ずれ・中抜け)	小規模のハラミ及び中抜け(積石が1～2個抜け落ちる)。						宅地地盤にテンションクラック無し円弧すべりのおそれ無し。						宅地地盤にテンションクラック有り円弧すべりのおそれ有り。					
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に対し垂直以下。(コンクリート系擁壁の場合：天端50mm未満の傾斜)。						擁壁が前面地盤に対し垂直(コンクリート系擁壁の場合：天端以上の傾斜)。						写真・図より					
	6 擁壁の折損(横・ななめびわれから起きるもの。はらんでいるが曲線的でなく、クラックを境に鈍角に折れている)。	クラックを境にわずかに角度をなしている。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに前傾している。)						クラックを境に明らかに角度をなしており、抜け石があり、裏込めコンクリートが見える。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。)						一見して大であると判るもの。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前傾している。又は、1mmでも剪断破壊があり後傾している。)					
	7 崩壊	中間辺りから上が滑っている。						基礎部を残して滑っている。						機能を果たしていない。					
	8 張り出し床板付擁壁の支柱の損傷	支柱にひびが入っている。						支柱のコンクリートがはがれて鉄筋が見えている。						支柱の剪断破壊。					
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。																	
	10 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。						左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。						水抜孔の詰まり、破損があり、排水機能が失われている。					
11 擁壁背面の水道管等破裂	破裂して水が流出している。																		
被害の判定値		基礎点 + 変状点						☆被害程度の点数と危険度判定☆											
※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し		1.0 + 9.0						無被害：0点(防災上問題無し) 小被害：1～4.5点未満(当面は防災上問題無し) 中被害：4.5点～8.5点未満(制限付き立入、進行していれば避難) 大被害：8.5点～(危険、要避難、立入禁止)											
		= 10.0 点																	
危険度判定		☒ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無																	
所見記入者の意見		緊急度 ☒ 大 ☐ 中 ☐ 小						(人命・財産・交通の3点を判定基準とする。)											
※無被害の場合は記載無し		拡大の見込 ☒ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可						(備考：)											

[illegible]

危険度判定票を作成してみよう

宅地編／擁壁編





①



①近



②



②近





③



④



⑤



⑥



(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

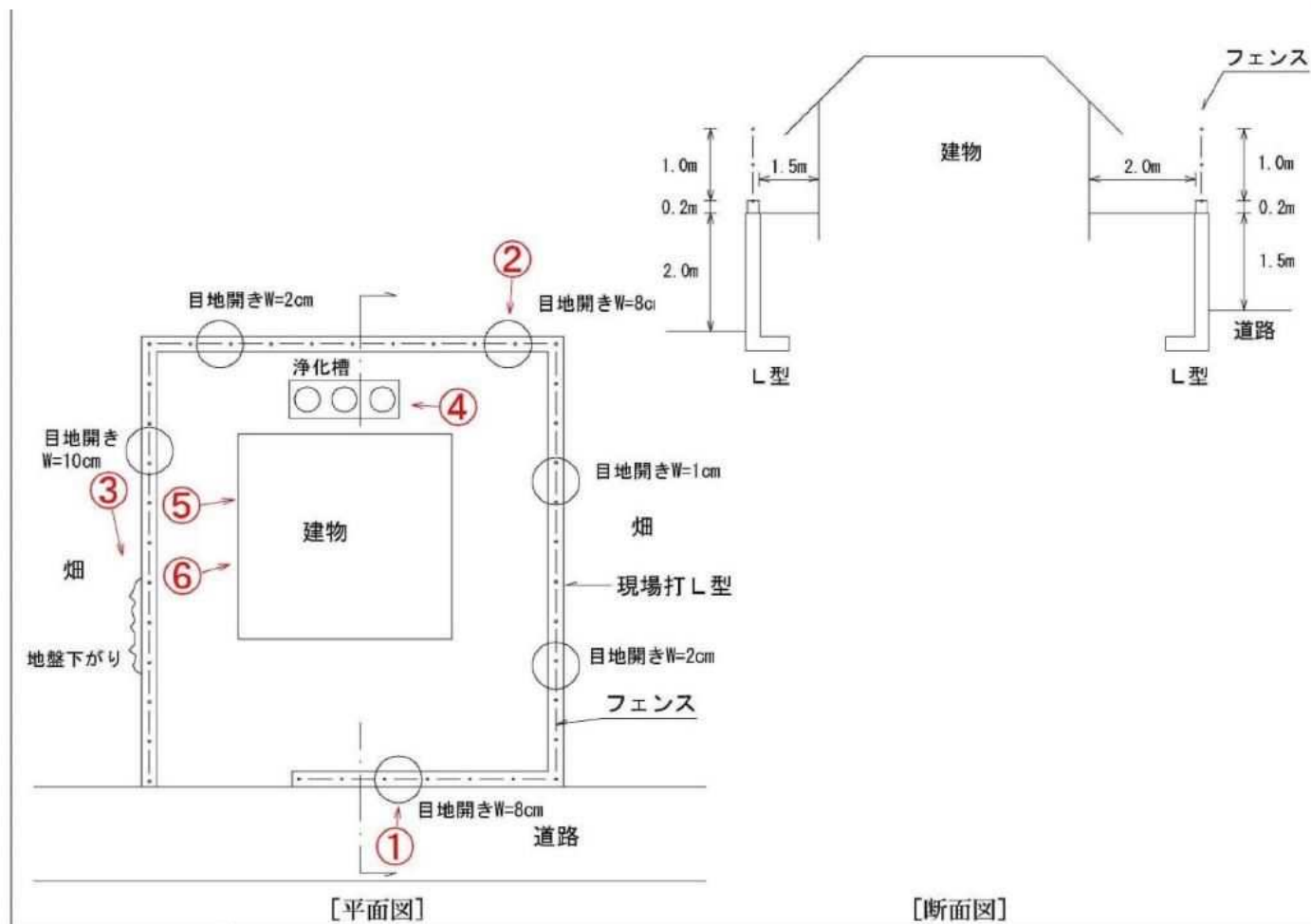
調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		地名又は降雨災害名					
所有者・管理者氏名		記入者氏名					
所有者・管理者の連絡先		TEL:					
地区/団地		市郡		区町村		番 号	
所有権		口済		口未了		口居住者不在	
口老人独居住宅							
＜被災状況＞		☐ 応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録					
1.クラック		2.水平移動		3-1.不同沈下		3-2.土地の動き	
4.ハラミ		5-1.傾斜		5-2.倒壊		6.被害の折損	
7.崩壊		8.圧迫し、基礎の被害		9.基礎及び基礎地盤の被害		10.排水施設の変状	

(様式－1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時	年	月	日	時	調査番号	
		地震名又は降雨災害名						
被害発生場所	都道府県		市郡		区町村			
	地区団地		丁目		番 号			
所有者・管理者氏名			記入者氏名	TEL：				
所有者・管理者の連絡先	TEL：		居住者への説明	☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅				
写真・図より			<被災状況図>			応急措置 ☐ 済 ☒ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録		
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾斜	5-2.倒壊	6.擁壁の折損	7.崩壊
8.張出し床版付擁壁の支柱の損傷		9.基礎及び基礎地盤の被害		10.排水施設の変状		建物・道路との位置関係(基礎点) 		

※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。

ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。



被災写真の有無	☐ 無	☒ 有→写真番号 [14-①~③]
特記事項		

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	☒ コンクリート系擁壁	☒ L(逆T)型 ☐ 重力式 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 増積み擁壁	増積部分[] 擁壁部分[] 全擁壁高 m 増設高 m	
		☐ 練石積擁壁	☒ 場所打ち ☐ プレキャスト ☐ 間地石 ☐ コンクリートブロック ☐ その他	☐ 二段擁壁	上部[] 下部[] 上部高 m；下部高 m	
		☐ 空石積擁壁	☐ 玉石積 ☐ くずれ石積 ☐ 間地石 ☐ その他	☐ 張出し床版付擁壁	☐ その他[]	
		擁壁の設置条件		☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明		
		擁壁の勾配		度 又は (1 :)		
基礎点	①湧水	乾燥	☒ 影響範囲に建物または道路がある	0	☐ 影響範囲に建物または道路がない(B)	基礎点計 ① +②+③ 1.0
		湿潤		0.4	0.2	
		にじみ出し、流出		0.8	0.4	
	②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止	図より	0	0	
		水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい		0.4	0.2	
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適当		0.8	0.4	
	③高さ	H≤1m		0	0	
		1m<H≤3m		0.2	0.1	
		3m<H≤4m		0.4	0.2	
		4m<H≤5m		0.6	0.3	
5m<H			0.8	0.4		



無被害： 0 点(防災上問題無し)

小被害：1～4.5点未満（当面は防災上問題無し）

中被害：4.5点～8.5点未満

(制限付き立入、進行していれば避難)

大被害：8.5 点～(危険、要避難、立入禁止)

所見(記入者の意見)

※無被害の場合は記載無し

緊急度

拡大の見込

□ 大

有

☒ 中

☐ 無

1

小

判断不可

(人命・財産・交通の3点を判定基準とする。

(備考:)

備考：

(様式-1) 擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県 市郡 区町村					
所有者・管理者氏名		地区 団地 丁目 番 号					
所有者・管理者の連絡先		所有者又は降雨災害名					
TEL:		記入者氏名 TEL:					
居住者への説明		□済 □未了 □居住者不在 □老人独居住宅					
＜被災状況図＞		応急措置 □済 □未了 □被災無 □簡易記録					
1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊							
8.張り出し床版付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状		建物・道路との位置関係(基礎点)					
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
被災写真の有無 □無 □有→写真番号 [14-①~③]				特記事項			
変状等が著しく、当該宅地に立ち入る際は、時間・人数を制限するなど十分注意が必要 変状が進行していれば避難も必要							

擁壁の基礎的条件		擁壁の種類		増設部分	
コンクリート系擁壁	☒ 逆T型 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ アレキスト ☐ コンクリートブロック	☐ 増設部分 ☐ 全壁高	☐ 上部 ☐ 下部	☐ 上部高 ☐ 下部高
石積擁壁	☐ 玉石積 ☐ 間地石 ☐ その他	☐ くずれ石積 ☐ 引出し床版付擁壁 ☐ 擁壁の設置条件 ☐ 擁壁の基礎	☐ その他 ☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 不明	☐ 度 ☐ 又は	☐ 度 ☐ 又は
基礎点		☐ 影響範囲に建物または道路がある ☐ 影響範囲に建物または道路がない		☐ 0 ☐ 0.1 ☐ 0.2 ☐ 0.3 ☐ 0.4 ☐ 0.5 ☐ 0.6 ☐ 0.7 ☐ 0.8 ☐ 0.9 ☐ 1.0	
区分		☐ 小 ☐ 中 ☐ 大		☐ 小 ☐ 中 ☐ 大	
変状の程度		☐ 小 ☐ 中 ☐ 大		☐ 小 ☐ 中 ☐ 大	
大・中・小の概要説明		☐ 小 ☐ 中 ☐ 大		☐ 小 ☐ 中 ☐ 大	
被災の判定値		☐ 1.0 ☐ 2.5 ☐ 3.5 ☐ 4.5 ☐ 5.5 ☐ 6.5 ☐ 7.5 ☐ 8.5 ☐ 9.5 ☐ 10.0		☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9 ☐ 10	
危険度判定		☐ 大 ☒ 中 ☐ 小 ☐ 無		☐ 大 ☒ 中 ☐ 小 ☐ 無	
所記記入者の意見		☐ 緊急 ☒ 中 ☐ 小 ☐ 無		☐ 人命・財産・交通の3点を判定基準とする。 ☐ 備考	

(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
		地名又は降雨災害名					
被害発生場所		都道府県		市 郡		区 町 村	
		地区 団地		丁目		番 号	
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL:			
所有者・管理者の連絡先		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人単居住宅			
TEL:							
<被災状況図> 応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録							
宅 地 地 盤				の り 面 ・ 自 然 斜 面			
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.壁ぶくれ
						3.ガリー浸食	4-1.滑落
							4-2.崩壊
5.のり面保護工変状		6.排水施設の変状		※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を宅地地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。			
[平面図]		[断面図]					
被災写真の有無	☐ 無 ☐ 有一写真番号						
特 記 事 項							

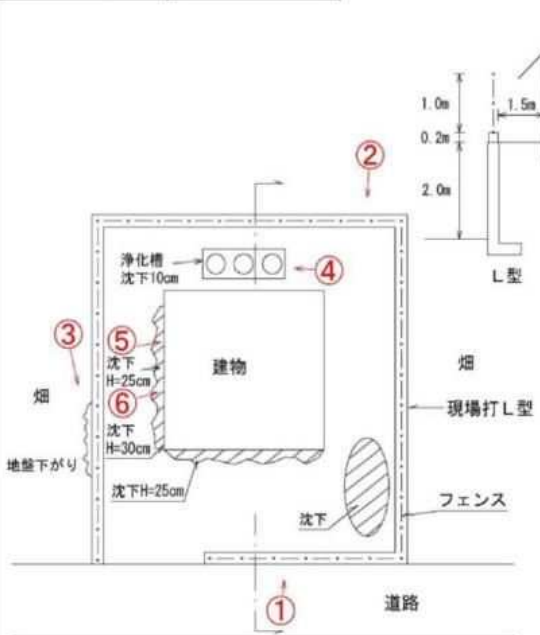
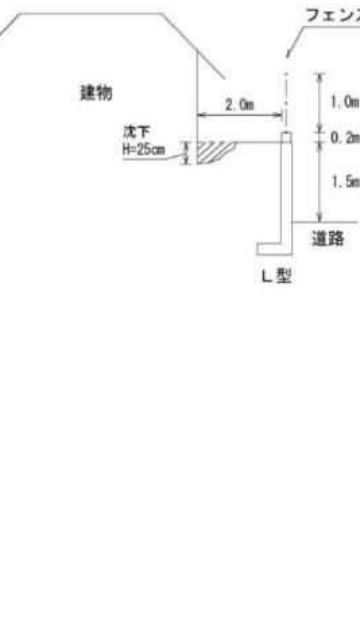
のり面・自然斜面の基礎的条件					
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明	オーバーハング	☐ 無 ☐ 有	
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明	排水施設	☐ 無 ☐ 有(のり面、小段排水)	
	のり面高 (観測のり面は崖絶高を)	最大高 m(平均高 m)	のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物	
	のり面勾配	度	擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部	
のり長さ	m	家屋の有無	☐ のり面の下部 ☐ 全面		
変 状 形 態 と 配 点 表					
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)	小	中	大	
	1 クラック(幅)	3 cm未満	1 3~15cm 未満又は複数	3 15cm 以上又は全面	5
	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2 20~50 cm 未満	4 50 cm 以上	6
	3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2 10~25 cm 未満	4 25 cm 以上	7
	4 段差(段差量)	20 cm未満	3 20~50 cm 未満	5 50 cm 以上	8
	5 隆起(隆起量)	20 cm未満	7 20~50 cm 未満	8 50 cm 以上	9
	6 湧水、噴砂	☐ 無 ☐ 有+1点(上の点数に1点加える)			
の り 面 ・ 自 然 斜 面	変形状態のチェック(複数可)	小	中	大	
	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1 3~15 cm 未満又は複数	2 15 cm 以上又は全面	3
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3 10~30 cm 未満	4 30 cm 以上	5
	3 ガリー浸食	クラックなどが満ちた状態となり雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6 のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7 洞穴状や溜壺状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7 表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8 全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9
	5 のり面保護工の変状 (植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7 例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8 例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラセン金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9
	6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3 左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	5 排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
	7 のり面内の水道管等の破損	破損して水が流出している。			
8 湧水、落石・転石	☐ 無 ☐ 有+1点(上の点数に1点加える)				
被害の判定値		☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0 点(防災上問題無し) 小被害: 1~3 点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4~7 点(制限付き立入、進行していれば避難) 大被害: 8~10 点(危険、要避難、立入禁止)			
危険度判定		☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無			
所見記入者の意図 ※無被害の場合は被害点の記録無し	緊 急 度	☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)			
	拡大の見込	☐ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可 (備考:)			

＜被災状況図＞					応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録						
宅地地盤					のり面・自然斜面						
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ぶくれ	3.ガリ浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊	
5.のり面保護工変状					6.排水施設の変状						
※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。											
〔平面図〕 〔断面図〕											
被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有 → 写真番号 [14-④～⑥]											
特記事項											

のり面・自然斜面の基礎的条件							
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明		オーバーハング	☐ 無 ☐ 有		
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明		排水施設	☐ 無 ☒ 有(のり肩、小段排水)		
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)		最大高 m(平均高 m)		のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物		
		(うち擁壁高 m)		擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部		
のり面勾配		度				☐ のり面の下部 ☐ 全面	
のり長さ		m		家屋の有無	上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無		
写真・図より 変 状 形 態 と 配 点 表							
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大
	1	クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15cm 未満又は 複数	3	15cm 以上又は全面 5
	2	陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm以上 6
	3	沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm未満	4	25 cm以上 7
	4	段差(段差量)	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm以上 8
	5	隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm以上 9
	6	湧水、噴砂	☒ 無 ☐ 有→+ 1 点(上の点数に 1 点加える)				

のり面・自然斜面	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未満又は複数	2	15 cm以上又は全面	3
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm以上	5
	3 ガリー浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壺状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9
	5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9
	6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
	7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。					8
	8 湧水、落石・転石	□無 □有→+1点(上の点数に1点加える)					
	被害の判定値 ※変状点の最大値に加算点を加えたもの ※無被害の場合は被害点の記載無し		7 点		☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0点(防災上問題無し) 小被害: 1~3点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4~7点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)		
	危険度判定		□大 ☒ 中 □小 □無				
所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し	緊急度	☒ 大 □中 □小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)					
	拡大の見込	☒ 有 □無 □判断不可 (備考:)					

(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県 市郡 区町村					
所有者・管理者氏名		地区 団地 丁目 番 号					
所有者・管理者の連絡先		TEL: 記入者氏名 TEL: 居住者への説明					
調査票		☐ 応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録					
宅地地盤 1.クラック 2.陥没 3.沈下 4.段差 5.隆起 5.のり面保護工変状 6.排水施設の変状 のり面・自然斜面 1.クラック 2-1.ハラミ 2-2.壁ふくれ 3.ガリ-浸食 4-1.滑落 4-2.崩壊							
※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
 【平面図】  【断面図】							
被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有 → 写真番号 [14-④~⑥]							
特記事項 沈下の変状が著しいため当該宅地に立ち入る際は、時間・人数を制限するなど十分注意する。変状が進行していれば避難も必要							

のり面・自然斜面の基礎的条件							
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明	オーバーハング	☐ 無 ☐ 有			
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明	排水施設	☐ 無 ☐ 有 (のり面、小段排水)			
のり面高	最大高	m(平均高 m)	のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物			
(深さのり面は擁壁高)	うち擁壁高	m	擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部			
のり面勾配	度			☐ のり面の下部 ☐ 全面			
のり長さ	m		家屋の有無	上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無			
変形状態と配点表							
宅地地盤	変形状態のチェック(複数可)	小	中	大			
	1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15cm 未満又は複数	3	15cm 以上又は全面	5
	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm以上	6
	3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm未満	4	25 cm以上	7
	4 段差(段差量)	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm以上	8
	5 隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm以上	9
	6 湧水、噴砂	☒ 無 ☐ 有 → +1 点(上の点数に1点加える)					
のり面・自然斜面	変形状態のチェック(複数可)	小	中	大			
	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未満又は複数	2	15 cm以上又は全面	3
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm以上	5
	3 ガリ-浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壺状にガリ-が進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9
	5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破損。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9
	6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は日地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
	7 のり面内の水道管等の破損	破裂して水が流出している。					8
8 湧水、落石・転石	☐ 無 ☐ 有 → +1 点(上の点数に1点加える)						
被害の判定値		7 点		☆被害程度の点数と危険度判定☆			
※変状点の最大値に加重点を加えたもの				無被害: 0 点(防災上問題無し)			
※無被害の場合は被害点の記載無し				小被害: 1~3 点(当面は防災上問題無し)			
危険度判定		☐ 大 ☒ 中 ☐ 小 ☐ 無		中被害: 4~7 点(制限付き立入。進行していれば避難)			
				大被害: 8~10 点(危険。要避難、立入禁止)			
所見記入者の意見	緊急度	☒ 大 ☐ 中 ☐ 小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)					
※無被害の場合は記載無し	拡大の見込	☒ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可 (備考:)					

- ・宅地擁壁の定義での判定 7.0点

⇒判定区分「中」

要注意宅地

- ・宅地地盤の定義での判定 7.0点

⇒判定区分「中」

要注意宅地

宅地擁壁の健全度判定・予防保全対策マニュアル

令和4年4月

国土交通省



ご清聴ありがとうございました

公益社団法人 全国宅地擁壁技術協会

